



平成 26 年度

2014

公益法人の法改正に伴い財団名称を「財団法人 吉田福祉基金」から「一般財団法人吉田福祉基金」と登記変更する。

吉田福祉基金も設立から20年が経過し、一段と高齢化が進むなか助成事業並びに研修事業において三重県下老人介護施設の希望に沿った事業の展開を行ってまいりました。

ソフト面の研修事業として、老人介護施設職員の資質向上を目的とした職員向け研修で特に要望の多い接遇研修並びに認知症研修等を年8回実施し参加者の意見を取り入れ研修内容の充実を図り三重県下190施設245名の参加を得て実施した。

ハード面の助成事業として、老人介護施設の福祉環境充実を図る目的で三重県下1団体22法人に軽自動車や各種車椅子等7種類と近年福祉施設において増加しているインフルエンザやノロウイルスの流行感染、また高齢者の増加に伴い介護施設での感染予防対策充実のため空気清浄機の活用が増加し設置希望がいまだに増加しているため、イオン発生機プラズマクラスターを継続的に寄贈を行い、長谷川順一常務理事から目録並びに備品の贈呈を行った。

平成26年度介護報酬改定が行われ、消費税率8%引き上げに伴い、介護サービス施設・事業所に実質的な負担が生じないよう、消費税対応分を補填する必要で0.63%の引き上げる改定となった。

記念講演では、平成27年4月介護報酬の改正が行われるにあたり贈呈式に出席した40名の役員及び施設関係者に改正点について、三重県健康福祉部・長寿介護課居宅サービス班、山中芳浩班長を講師に迎え「介護保険制度の状況」についてと題した講演を行

い、助成を受けた、(社)多気町社会福祉協議会村林事務局長と(社)翠明院伊藤院長の二法人から寄贈並びに施設職員研修会開催の感謝及び助成品の活用状況等法人の活動報告を受けました。

6月27日の役員会は岡山県の東和薬品岡山工場を視察し開催した。

8月9日台風11号に伴う大雨で気象庁は数十年に一度の大雨と重大な被害が起こる恐れがあるため、三重県に大雨特別警報が出た、それを受け県内の自治体では避難指示を出した。

8月20日には広島県で大雨による大規模な土砂災害が発生し多数の家屋が流出し死者74人を出す大災害となった。

9月10日東日本大震災後3年6カ月が経過しても行方不明者の捜索が難航しいまだ2597人の行方不明者がいる。

9月14日現在、65歳以上の高齢者人口は3296万人で前年より111万人増え、高齢者の割合は25.9%と過去最高に達した。

9月27日長野県と岐阜県にまたがる活火山「御嶽山」が噴火し登山客56人の死亡者と行方不明者7人を出す戦後最大の大惨事が発生した。

11月22日長野県北部を震源とする地震(長野県神城断層地震)が発生、家屋の全半壊141棟を出しケガ人44名を出したが普段からの災害に対する意識と地区内の見守りのおかげで死亡者は一人も出なかった。

東日本大震災後4年が経過した3月10日現在、行方不明者の捜索が難航し、いまだ2,579人の行方不明者と震災による直接死は15,891人となり、仮設住宅等での避難者は22万9,000人になっている。

平成26年度理事・評議員会



吉田福祉基金理事・評議員

平成26年度助成事業目録贈呈式



長谷川順一常務理事挨拶



記念講演

平成26年度助成事業目録贈呈式



寄贈品並びに目録贈呈



寄贈車輛引渡式



贈呈式



活動報告 村林多気町社会福祉協議会事務局長

平成26年度助成事業目録贈呈式



活動報告 伊藤翠明院院長



老人福祉施設等整備事業(助成・寄贈)

2,441,756円

平成26年度
寄贈品
一覧



軽自動車／2台



自走式・介助用車椅子／3台



フルクライニング車椅子 / 7台



マイチルト車椅子 / 3台



衝撃吸収マット / 2台



離床センサー / 4台



エアーマット / 2台



イオン発生機プラズマクラスター / 3台

多気町	老人福祉環境整備事業 高齢者の介護認定調査および定期的訪問のため ◆ 軽自動車アルト 1施設 1台	630,000円
-----	---	-----------------

多気町 社会福祉協議会	老人福祉環境整備事業 新事業の介護予防・日常生活支援総合事業への対応のため ◆ 軽自動車アルト 1施設 1台	630,000円
----------------	--	-----------------

近 隣 ・松阪市 ・伊勢市 ・多気郡 ・度会郡 各老人福祉施設	老人福祉環境整備事業 車椅子利用者の増加と老朽化、利用者の安全性と利便性の向上、介護度の高い利用者が増加し機能性の高い車椅子提供、 ◆ 自走式介助用車椅子 1施設 3台 (社) 伊勢市社会福祉協議会 (通所 御園支所) 3台 ◆ フルリクライニング車椅子 2施設 2台 (社) 邦 栄 会 (特養 双寿園) (社) 吉 清 会 (特養 かりん) ◆ マイチルト車椅子 3施設 3台 (社) 斎 宮 会 (特養 みずほの里) (社) キングスガーデン三重 (特養 大台共生園) (社) 慈 恵 会 (通所 正邦苑) 入所者の褥瘡予防、床ずれ防止 ◆ エアーマット 1施設 1台 (社) 笠木御所桜会 (特養 ときだの里) 利用者の感染予防とアレルギー対策、環境改善 (生活臭除去) ◆ イオン発生機プラズマクラスター 2施設 2台 (社) 長 寿 会 (短期入所 なでしこ苑) (社) 司 会 (介老 弘樹苑)	547,464円
--	---	-----------------

左記以外の
県下各市町の
老人福祉施設

老人福祉環境整備事業

634,292円

車椅子利用者の増加による不足と老朽化による更新、利用者の高齢・重度化に伴う利用者増で機能の高い車椅子の提供、

◆ フリクライニング車椅子 5施設 5台

- (社) 青 松 園 (特養 青松園)
- (社) 健 和 会 (特養 パークレジデンス)
- (社) 風 薫 会 (特養 サテライトみなど)
- (社) 青山里会 (軽老 小山田老人ホーム)
- (社) こもはら (特養 はなの里)

ベットからの転倒・転落保護

◆ 衝撃吸収マット 1施設 2台

- (社) 菰野町社会福祉協議会 (通所 けやき)

身体機能の重度化、利用者の寝たきりや認知症が増加しベットからの転倒防止、安全・安心確保に不可欠

◆ 離床センサー 4施設 4台

- (社) こしば福社会 (介老 トマト)
- (社) 憲 甚 会 (特養 ソフトハウス)
- (社) 光 風 会 (特養 アイリス)
- (社) いがほくぶ (特養 彩四季)

利用者の重度化で、褥創及び疾病予防のため増備

◆ エアーマット 1施設 1台

- (社) 翠 明 院 (養老 翠明院)

インフルエンザ・風邪対策等感染症予防、

◆ イオン発生機プラズマクラスター 1施設 1台

- (社) 御浜町社会福祉協議会 (通所 センター)

平成26年度第1回介護事業施設職員接遇研修会に先がけ、理事出席のもと開校式を行い長谷川常務理事の挨拶の後、今年度実施予定の8回の研修会をスタートさせた。



長谷川順一常務理事挨拶



開校式 全員写真

第1回 介護施設職員研修会（接遇3年未満）（21）

（参加 21施設 26名）5月22日

法人（愛恵会・長寿会・三重高齢者福祉会・むつみ福祉会・ゆり・松阪市社協・多気町社協・大台町社協・南伊勢町社協・青松園・白壽会・絆・長茂会・杏南会・エイジハウス・志摩市社協・紀南特養ホーム組合・恵成会・青山福祉会）

新規採用から3年未満の介護施設職員を対象にした接遇研修も回を重ねる毎に参加者も増え新卒者から福祉業務に携わって1年未満の受講生や経験豊富な受講生まで幅広い参加となり年々希望者も増え接遇研修の必要性の高さを実感する。

介護職の仕事をして行く上で特に1年未満の受講生には接遇マナーの研修は初めての人が大半で利用者への対応の仕方の難しさを勉強し自分の仕事に誇りを持ち充実した毎日を過ごし利用者に満ち足りた気分を与え、お互いの成長の手伝をするための研修で職場での実践に繋げてもらいたい。



講演 “心からのサービス” 介護従事者の接遇マナー

講師 エム・アール・シー 足坂三長・井ノ口美津子

1. オリエンテーション
2. 社会人としての心構え
必要な基本能力とは、職場のエチケット、第一印象の大切さ
3. お客様を迎えるマナー
挨拶と丁寧なお辞儀、表情の大切さ、感じのよい態度、身だしなみとオシャレ
4. 社会的な言葉づかい
依頼文・肯定文、職場での言葉づかい、話し方の工夫
5. 応接の基本動作
物の授受、名刺の交換、指し示し方・案内の仕方・印鑑の処理・書類の破棄
6. 利用者送迎の対応
訪問時のマナー、言葉のトレーニング、送迎時の対応実習
7. ビジネス電話対応

電話の受け方・かけ方、事例による応対実習、取次ぎ電話応対・伝言メモ・道案内

8. サービスの心得

受講生の感想

普段普通に出来ていなかった事を実感した、何気ない言葉使いや表情など大事なんだなあと思う、自分が気づけなかったところがわかった自分の欠点を見つけることが出来た、言葉使いや笑顔などで相手に与える影響が或ることが改めてわかった。

第2回 介護施設職員研修会（接遇4年以上）（22）

（参加 27施設 42名）6月12日

法人（愛恵会・長寿会・三重高齢者福祉会・むつみ会・育心会・笠木御所桜会・キングスガーデン三重・ゆり・三重豊生会・多気町社協・玉城町社協・南伊勢町社協・青松園・こしば福祉会・白寿会・素問会・絆・明合乃里・長茂会・菊寿会・杏南会・エイジハウス・紀南特養ホーム組合・憲甚会・恵生会・青山福祉会・弘仁会）

介護職勤務4年以上の職員を対象とした研修ですが経験豊かな職員でも接遇研修は初めてという職員も多く毎回定員をはるかに超える受講者で一人一人熱心に研修を受け自分の物にしようとの努力が感じられ研修の成果を職場に帰ってフィードバックして行きたいとの感想も聞かれました。



講演 “心からのサービス” 介護従事者の接遇マナー

講師 エム・アール・シー 足坂三長・井ノ口美津子

1. オリエンテーション

2. 心のこもった話し方

話し方の工夫・職場での話し方・介護での声の掛け方・話し方、聞き方のマナー

3. コミュニケーション

コミュニケーションとは・悪くなる要因・コミュニケーションの取り

- 方・グループ討議・発表
4. 基本行動とマナーの見直し
 応接の基本動作（物の授受・名刺の交換）・第一印象と挨拶・表情と態度・身嗜みと言葉遣い
 5. 来客・訪問対応
 来客訪問のマナー・来客訪問の対応用語・グループで対応実習（お迎えからお見送り）
 6. 信頼される電話対応
 電話の受け方、掛け方・事例による対応実習（取次ぎ、苦情電話）・イレギュラーな対応



参加者 全員写真

受講生の感想

話し方一つで利用者さんの取り方が変わるので気を付けたい、名刺交換でも正しい知識を得られた、何時も明るく良い印象を与えられる職員になるよう努力したい、普段使っている言葉・話し方が相手にどのような伝わっているか振り返れた、今日学んだ事を少しでも身につけプラスにしたい、職員間や介護者のコミュニケーションの大切さを実感、第一印象・第一声の大切さを実感、今後の職務に生かしたい。

第3回 福祉レクリエーション研修会（7）

（参加 21施設 28名）7月10日

法人（愛恵会・三重高齢者福祉会・むつみ福祉会・育心会・キングスガーデン三重・伊勢医心会・ゆり・伊勢市社協・多気町社協・玉城町社協・青松園・明合乃里会・菊寿会・青山福祉会・こもはら福祉会）

仕事や勉強などの疲れを、体験や娯楽によって精神的・肉体的に回復すること、レクリエーションの最大のコツは利用者を知ること、自分も楽しむこと、しっかり計画を立て準備をすること。

運動や娯楽で心身を爽快にし気晴らしや休養を取り入れた集団レクで遊びから価値を引き出し生活を活性化し利用者にも楽しんで頂き自分も楽しむ。

レクリエーションの中にゲームを取り入れて利用者さんを楽しく生活の場に繋げて行き利用者の幸せ、助け合い個々の援助を行う。

毎日楽しく笑って生活できれば、健康で生きがいを持って生活できれば・・・レクリエーション財を通してアプローチ法を学ぶ。



参加者 全員写真

講演 福祉レクリエーション

講師 三重県レクリエーション協会 伊藤準康

1. レクリエーション体験
2. レクリエーションの意義
3. 高齢者の生活からみるレクリエーション

生活のレクリエーション化

レクリエーションの生活化

4. レクリエーション支援のポイント

受講生の感想

レクリエーションの楽しさや難しさが知ることが出来勉強になった、毎回同じレクの繰り返しでしたが少し工夫をすれば楽しめるレクがあることが解った、アイデアを浮かばせる為には目的をハッキリさせることが大切なのが解った、利用者さんを良く知ったうえで利用者さんや職員も楽しめるレクを行いたい、色々なレクリエーションが学べて楽しかった、実技つきの研修で分かりやすく楽しかった。

第4回 認知症介護研修会（8）

（参加 25施設 36名）8月7日

法人（愛恵会・長寿会・三重高齢者福祉会・むつみ会・育心会・笠木御所桜会・キングスガーデン三重・伊勢医心会・ゆり・伊勢市社協・多気町社協・玉城町社協・青松園・白寿会・明合乃里・長茂会・菊寿会・杏南会・恵仁会・青山福祉会・こもはら福祉会）

認知症高齢者の方に対する介護サービスの提供には、より高度な専門性が必要なことから高齢者介護実務者及びその指導的立場にある者に対し認知症介護に関する研修を実施し、認知症介護技術の向上を図ることを目的とします。

施設において認知症の利用者が増える中、介護職員の介護対応が切実な問題として起こっており、認知症の人への対応として介護（快護）の「さわやかに」「さらりと」「さりげなく」を三つの基本とした介護の実践。



講演 認知症介護研修 「認知症の人への関わり方を振り返る」

講師 サポートさくら 大西道子、野口美枝

認知症は出来るだけ本人の気持ちを大事にし自分で出来るように支援す

る、介護者の都合で認知症の人の行動を迎え込んだり介護漬けにしない。

記憶が不安定になっているので、以前のことを聞き出すようなことはしないでアドバイスをするような接し方をする。

1. 認知症の人の心の変化と支援のポイント（講義）

初発期の1～2年は記憶障害、感情障害、人格変化が表れ始め、初期の3～4年は見当識障害、判断力の低下、失認・失行・失語、計算力の低下が顕著になって来る、中期の5～8年は記憶障害が激しくなり、徘徊・妄想などの周辺症状がひどくなる、末期の5～8年は日常生活全般に介助が必要になる。

2. 映画「折り梅」観賞

映画を見ながら場面と主人公が体験している気持ち、状態、その理由を観察しメモする（演習1）

3. 演習

映画「折り梅」の観賞を通じて ワークシートを使って、認知症の人への関わり方について、考えてみよう！

4. 認知症の人とのコミュニケーションの取り方

認知症の人が発する信号を家族や介護者が好感度に受信して理解し適切な対応を返すことで互いの心に共感を生むにはどうしたらよいという視点。



参加者 全員写真

受講生の感想

利用者の気持ちを考え対応することで認知症の方との良い関係が気づけることが解った、他施設との意見が聞けて参考になった、忘れかけていた事に気付けた、認知症の方の考え・表情・感情があることが解った、基本が大切だともう一度初心に戻ってしなければ、認知症について考えさせられる研修に成った、大変参考になりました。

第5回 認知症介護研修会（9）

（参加 26施設 27名）9月4日

法人（愛恵会・長寿会・むつみ福祉会・斎宮会・育心会・キングス ガーデン三重・伊勢医心会・ゆり・三重豊生会・伊勢市社協・多気町社協・宮川福祉施設組合・青松園・ウェルケア・素問会・明合乃里・長茂会・菊寿会・青山福祉会・三重郡老人福祉施設組合）

高齢者の認知症の方に対する介護サービスの提供には、より高度な専門性が必要なことから高齢者介護実務者及びその指導的立場にある者に対し認知症介護に関する研修を実施し認知症介護技術の向上を図ることを目的とします。

施設において認知症の利用者が増える中、介護職員の介護対応が切実な問題として起こっており、認知症の人への対応として介護（快護）はお互いを感じていることや考えていることを伝え合うこと。



参加者 全員写真

講演 認知症介護研修 「認知症の人への関わり方を振り返る」

講師 サポートさくら 大西道子、野口美枝

認知症の介護は本人が何をしたいかを察知し、出来るだけ本人の気持ちを大事にし自分で出来るように支援する、介護者の都合で認知症の人の行動を迎え込んだり介護漬けにしない。

記憶が不安定になっているので、以前のことを聞き出すようなことはしないでアドバイスをするような接し方をする。

1. 認知症の人の心の変化と支援のポイント（講義）
2. 映画「折り梅」観賞

映画を見ながら場面と主人公が体験している気持ち、状態、その理由を観察しメモする（演習1）

3. 演習

映画「折り梅」の観賞を通じて いくつかの場面の、利用者の気持ちと家族の対応方法から、適切な支援の方法を考える

4. 認知症の人とのコミュニケーションの取り方

顔の表情、視線、ジェスチャー、声の表情、スキンシップ（ボディタッチ）等感情に働きかけ見守りが大切

受講生の感想

グループで他施設との意見が聞けて参考になった、具体的な講義で分かりやすかった、認知症についていろんな対応意見考えが有ることを知れた、優しい気持ちで利用者さんへの尊重を忘れないよう心掛けて働きたい、日々の職場で活用出来るよう取り組みたい、研修内容を職場で実施できるよう努力したい、基礎が学べた。

第6回 介護技術研修会（7）

（参加 27施設 36名）10月2日

法人（愛恵会・長寿会・三重高齢者福祉会・むつみ福祉会・斎宮会・笠木御所桜会・キングスガーデン三重・伊勢医心会・ゆり・三重豊生会・吉清会・伊勢市社協・多気町社協・玉城町社協・度会町社協・青松園・ウエルケア・素問会・明合乃里会・菊寿会・青山福祉会・弘仁会・三重郡老人福祉施設組合）

車椅子の機能・構造を正しく知り、安全に運転し介助される側の気持ちを理解し介助のポイントを学習する。

移乗・移動の介助のコツを把握し安全に介助し介助される側の気持ちを理解し介護のポイントを学習する。

利用者、介護者、観察者を交代で実施し、それぞれが感じたこと、学んだこと等をグループで話し合い整理し演習を通じて学んだことを共有する研修。

講演 介護技術研修（車椅子での移動介助・ベット上の移動と移乗の介助）

講師 サポートさくら 野口美枝、大西道子

1. 車椅子での移動介助のポイント
2. 車椅子での介助（演習）
3. グループワーク
4. ベット上の移動と移乗介助のポイント（講義・演習）
5. グループ・ワーク、発表



参加者 全員写真

受講生の感想

車椅子の実習で実際に座ってみて利用者さんの視点が解った、施設に帰って実施したいと思った、車椅子やベッド上での移乗のときの声掛け大切さ、利用者や介護者が楽な介護方法を工夫しながら経験したい、利用者さん介護者の視点に立った介護技術が学べた、利用者さん側に立った介護を心掛けたい、施設に戻って研修の成果を職員に伝えたい。

車椅子での体験は出来て良かったが怖かった、車椅子に長い時間座りばなしは苦痛を感じた、福祉用具の上手な活用、利用者さんに近づき体を密着させたり声掛けをすることで利用者さんも安心する。

第7回 介護職員研修会（話し方研修と意見交換）（3）

（参加 22施設 25名）11月20日

法人（愛恵会・長寿会・三重高齢者福祉会・むつみ福祉会・育心会・笠木御所校会・キングスガーデン三重・司会・三重豊生会・多気町社協・宮川福祉施設組合・青松園・こしば福祉会・ウエルケア・素問会・明合乃里会・青山福祉会・菊寿会）

介護・福祉施設の利用者やその家族の期待するサービスを、常に意識しながら行動することが基本となる利用者本位のサービスの実施が求められる時代です。

また、乳幼児から老人、障害者と対象も広く、入所・通所・訪問・居宅介護支援などと、形態も様々で従事する職員個人の知識やスキルなどの幅の広さが求められます。

しかし、これらの組織は施設の目的に適した編成になっていることが多く、職員一人ひとりが持つノウハウ・知識・経験を活かすために、施設を越えた交流が重要になってきます。

関係者の対話とコミュニケーションによる経験の共有が仕事の質の向上に大きな影響を与えることから、日頃の経験が気楽に交換できる対話やコミュニケーションの場の設定も重要と言えます。

また、「福祉の受け手はお客様」「選ばれる福祉サービス」の時代です。そのために“質の高いサービス”を生み出す努力が必要です、利用者がお客様となれば、今まで遠慮して口にしなかった苦情の解決も求められてきます、お客様の希望に適切に応えられるために、福祉の分野にも企業努力が求められるのです。

福祉改革により、これからの福祉事業の経営は「顧客本位」と「全員参加」と「継続的な改善」を進める活動が不可欠となってきます。

たとえば、職場にはいろいろな問題が発生するものです、その問題を放っておくと段々と大きくなり、取り返しのつかない状況に追い込まれてしまいます。1：29：300の法則（ハインリヒの法則）、これは1つの問題の奥には“29”もの中問題があり、29の中問題の奥には“300”もの小問題があると言われています。

それらの問題を日常業務の中で解決していくことが“利用者へのサービス”につながっていきます。

今日は、現場で働く皆さんの“聞きたいこと”“解決したいこと”を他の福祉施設の方々と交流を深めながら、体系的に解決を図っていく研修となります。



参加者 全員写真

講演 話し方研修と意見交換

講師 エム・アール・シー 足坂三長・井ノ口美津子

1. オリエンテーション
2. 判り易く話す
好感を与える挨拶、話し方の工夫、美しい発声・発音、音の長短・強弱・速さ、
3. 話し方の実習（一人一人演習）
職場での話し方、介護の上手な声掛け、話す・聞くの心得
4. 意見交換会の実施
活力ある職場づくり、ブレインストーミング、現状における施設の問題点、現状の分析、具体的な解決策の検討
5. 意見交換の発表
グループ毎に発表、質問と追加意見

受講生の感想

意見交換で色々な意見が聞け同じ悩みの問題をかかえているのが分かった。施設間の情報交換は楽しく勉強になった。話し方を工夫するだけで相手への伝わり方が違うことを研修で理解出来た。グループ討議で悩みや対応方法が話し合えた。介護方法について他施設からアドバイスが受けられた。利用者さんへの接し方・関わり方の見直しになった。意見交換で悩みの解決にも繋がった。

第8回 リーダー育成研修会 (9)

(参加 22施設 26名) 12月11日

法人 (愛恵会・長寿会・三重高齢者福祉会・むつみ会・育心会・笠木御所桜会・キングスガーデン三重・三重豊生会・伊勢市社協・多気町社協・宮川福祉施設組合・青松園・こしば福祉会・ウエルケア・明合乃里会・菊寿会・青山福祉会・こもはら福祉会)

職場でお客様へのサービスを円滑に進めていくには良い人間関係とチームワークが大事になり、その善し悪しは、職員一人ひとりのコミュニケーションのあり方にかかってきます。

施設では人材がとても大切です、また職場においても人材は業績を大きく影響を与えます、職員の中でもリーダーになる職員の影響も大きくなります。

今、注目されております職員研修で集団を統率し人を動かしリーダーシップを発揮していく職員の養成、職場の中でも部下に対して「期待」「関心」を持ち成長に必要なポイントにきずかせ自己啓発をさせ成長を促し部下の指導をしていく上で特に必要になるコーチング技術の習得を目的として参加者が実践的なコーチング内容の会話を作り実習に取り入れた研修であります。





参加者 全員写真

講演 リーダー研修 “CSの心を高めよう!”

講師 エム・アール・シー 足坂三長・井ノ口美津子

1. オリエンテーション
2. チームワーク
グループ作業（実習）、活動のポイント、コミュニケーションとは
3. コーチングの基礎
ティーチングとコーチングの違い、コーチングの三原則、コーチングの話法（導入→会話（事例）→確認）、話し方の工夫
4. コーチングの実習
コーチングの会話（コメント）、指導ストーリー作成、一人二組で実践、タイプ別コーチング
5. リーダーシップ
リーダーシップの定義、指導者のあり方、リーダーの心得
6. まとめ

受講生の感想

今後活用できるコミュニケーションの取り方を沢山学べた、相手の気持ちを考えた教育や対話術を学べた、今までと違う目線で職場を見直したい、部下に対して良い上司・リーダーになれるよう頑張りたい、具体的なコーチング技術を解り易く学べた、コミュニケーションや言葉の表現の大切さや職員間の信頼関係を作る努力をしなければと実感、リーダーとしての心得や人間性の向上の大切さを学べた、コーチング・ティーチングについて今後の指導・コミュニケーションに活用していきたいと感じた、いろいろな施設の職員と交流が出来た。

第17回吉田福祉基金杯GB大会

後援（一財）吉田福祉基金 5月10日

年々チームが減少するなか吉田福祉基金杯ゲートボール大会は県下の大会においても一番大きな大会となり本年度も県内各ブロックから大会参加希望が沢山伝えられた、本大会ではより多くのチームが参加出来るよう多気スポーツ公園野球場に13面のコートを作り大会を実施した。

天候に恵まれゲートボール会場に春の日差しがそそぐなか多数の来賓を迎え県下74チームから450名の役員、選手が参加し前年度優勝の伊賀オールズ主将の選手宣誓により競技を開始し選手たちは砂埃の立ち上げるグラウンドで優勝に向かいチーム一丸となり一つでも多くのゲートを通過させようと、日頃の練習成果を発揮し真剣にプレーしチーム間の融和を図りながら和気あいあいに競技を進めた。

優勝 虹ヶ丘（松阪市）チーム
準優勝 河芸カーム（津市）チーム
3位 北小松（四日市市）チーム



久保行央大会会長挨拶



開会式



選手宣誓



大会役員及び来賓者始球式



大会競技



優勝 虹ヶ丘（松阪市）チーム
優勝コメント「優勝できたのは夢のよう。みんな日頃の練習の成果が出ました」

